

シネマ203

上映作品ラインナップ

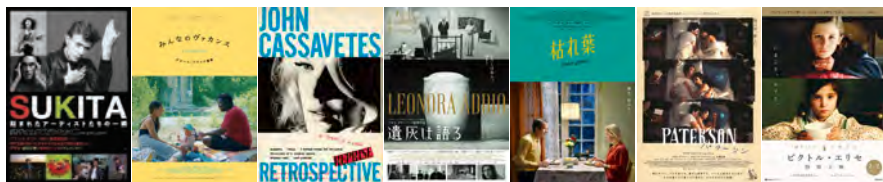
たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁に、日本最小の映画館がオープンしました。

大きなスクリーンと、包み込むような音響で映画に没入できる 15 席の空間で、

小さいけれど本格的な“極小極上”の映画体験をお楽しみください。

ドキドキするような世界の映画を、毎月の土日祝を中心に月替わりで上映しています。



見たい映画を見逃す心配のない映画館に

- 毎月の土日祝を中心に、シネマ 203 が上映時間を設定してスケジュールを発表します。
- スケジュールの空き枠には、日時オーダー上映を受付中。ご希望の上映時間と上映作品を指定してお申込みください。追加上映します。(HP、Facebook、Instagram で随時更新)
- 当日券あり、いつでもふらりとご来場ください。
なお、ご観賞の事前予約も各回 10 名様まで承ります。
(HP のスケジュールページに予約フォーム有。電話、メール、SNS メッセージでの予約も歓迎)

入場料金 (基本料金)

一般：1,700 円 / 大專：1,500 円 / 小中高：1,000 円

※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。

※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。

アクセス【北ぶらくり丁会館 2F】

本町公園より徒歩 1~2 分

北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い道路に【北ぶらくり丁会館】の鉄看板アリ。奥の赤い階段を 2 階へ。

【駅から徒歩】

和歌山市駅より徒歩 10 分 (800m)

和歌山駅より徒歩 25 分 (2km)

【駅からバス】各バス停より徒歩 2~4 分

和歌山市駅より約 1~2 分

和歌山駅より約 5~9 分



北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema203 4月の上映



レオス・カラックスと生きる／生きない
「俳優という名の共犯者たち」



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 カラックスと生きる／生きない——俳優という名の共犯者たち

ひいきのスタアを追いかけるのは映画ファンの楽しみのひとつです。彼ら／彼女らが監督に呼ばれて共犯関係を結び、新しい顔を見せてくれる。見たことのない映画ができる。その監督がレオス・カラックスだとしたら!? 期待と不安が止まりません。彼が日本に紹介されてから 36 年、映画はまだまだどこまでも行けそうです！ 驚愕の復帰作『ホーリー・モーターズ』(12)はまたの機会を待つとして、今回は彼の最新作と日本初公開作を、ジュリエット・ピノシュのその後とともに。

【圧・倒・的・映・画・体・験！】

カンヌ国際映画祭のオープニングを飾り、世界の度肝を抜いて監督賞まで受賞した異形のミュージカルを、2022 年の日本公開からちょうど 2 年となる 4 月に和歌山で上映します。カラックス監督の傍若無人な“恐るべき大人”っぷりにご用心を。それに、今回のアダム・ドライバーは、『パターソン』ではありません。“息すらも止めてご覧ください”。



『アネット』ANNETTE

監督：レオス・カラックス
原案・音楽：スパークス | 撮影：キャロリーヌ・シャンブティエ
出演：アダム・ドライバー、マリオン・コティアール ほか
共同制作+配給：ユーロスペース
(2021 年／仏・独・ベルギー・日／140 分／1.85：1)

【愛は、伝染する。——少年は金庫を、少女は錠を破った。】

21 世紀の足音が聞こえるバリ。ふとしたことから知り合った男と女と男の、永遠に結ばれないトライアングルを、26 歳の天才監督がとんでもなく素晴らしい映画に仕立て上げたのだ。かつて無かった斬新な映画作り、スピーディーでかつリリカルなストーリー展開の中、夜が走り、愛が呻く。(1988 年 2 月、シネマライズ渋谷公開時のチラシより)



『汚れた血』MAUVAIS SANG

監督：レオス・カラックス
出演：ドニ・ラヴァン、ジュリエット・ピノシュ、
ジュリー・デルビー、ミシェル・ピコリ ほか
提供：ユーロスペース
(1986 年／フランス映画／119 分／ビスタ)

【スイスの絶景に浮かび上がる、大女優の光と影】

青年カラックスのミュージズとして忘れられないジュリエット・ピノシュは、世界の映画の変遷を先導するかのような女優人生を送ることになりました。錠破りの少女が、いつの間に

ここまで……ジュリエット本人を思わせる主人公マリアの物語は、自ら俊英アサイヤス監督に打診した渾身の企画とか。異国の監督の下で才能を爆発させる若手ハリウッド女優たちを前に、目を背けてきた自分と向き合うその姿を、二重写しで見ってしまう……。原題は「シルスマリア」、19 世紀から多くの芸術家を魅了してきたスイスの美しい土地の名前です。



『アクトレス 女たちの舞台』SILS MARIA

監督・脚本：オリヴィエ・アサイヤス
出演：ジュリエット・ピノシュ、クリスティン・スチュワート、
クロエ・グレース・モレッツ ほか
配給：トランスフォーマー
(2014 年／フランス・スイス・ドイツ／124 分／スコープ)

🎬 連続上映あと 3 ヶ月、ドライヤーという奇跡とともに

4 月に登場するホームドラマ『あるじ』の主人公は、働き者の主婦イダ。暴君のような夫も、それをいびる意地悪ばあさんも、誰ひとり悪者扱いせず包み込む大きなやさしさに圧倒される愛の物語です。再登場の人気作『裁かるゝジャンヌ』もお見逃しなく。見るほどに美しい、そして新しいドライヤー監督の魔法が今月もここにある幸せを、皆さまと一緒に。



カール・テオドア・ドライヤー セレクション vol.2

- 『ミカエル』Mikaël (1924 独) 1h35
- ★『あるじ』Du skal ære din hustru (1925 丁) 1h47
- ★『裁かるゝジャンヌ』La Passion de Jeanne d'Arc (1928 仏) 1h37
- 『吸血鬼』Vampyr (1931 仏独) 1h14 *初のトーキー
- 『怒りの日』Vredens dag (1943 丁) 1h27
- 『奇跡』Ordet (1954 丁) 2h06
- 『ゲアトルーズ』Gertrud (1965 丁) 1h58

★ 4 月の上映 (配給：ザジフィルムズ)

🎬 「So, may we start? それじゃ、始めようか」

3 月は、待望の書店「本町文化堂」がオープン！北ぶらくり丁すぐそばにカルチャー発信基地がやってきました。めでたい。

劇場は、ビクトル・エリセ監督『瞳をとじて』の話題で持ち切りでした。日曜祝日には、ジストシネマのスクリーン 4 が映画ファンで一杯だったとか。[サロンシネマ]とともに 12 月には 20 周年を迎えるジストシネマ、今月も注目の韓国映画『バスト ライブス／再会』や、ソフィア・コッポラ監督最新作『プリシラ』など楽しみばかりです。

今月の 203 は、カラックス監督の『汚れた血』を特別上映します。一人の映画人がこの映画と出会い、

日本でバリで同志を集め規格外の『ボンヌの恋人』(91)を実現させた驚愕の舞台裏は、22 年に出版された「インディペンデントの栄光」(筑摩書房)でご一読を。『ボーラ X』(99)、『ホーリー・モーターズ』(12)、そして『アネット』(21)へと途切れず続くもう一つの熱い映画人生に畏敬を込めて。そして、幸福な映画の新時代到来に願いを込めて。

5 月は、「人類の進歩と調和」をテーマに、ヨーロッパの新人監督作品を上映すべく準備中です。和歌山は大丈夫だ、そんな希望に満ちた初夏になりそうな予感。ご期待ください。

(北ぶらの積読家より)